

予防行動に関する量的データ収集および包括的分析からの評価

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学 大学院看護学研究科 准教授）

研究要旨

仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、那覇市に設置された5か所のコミュニティセンター来場者においてHIV治療薬の進歩やU=UといったHIV・エイズの最新情報の認知度を明らかにすることである。2019年、2020年それぞれ1か月間全国一斉に自記式質問紙調査を実施した。コミュニティセンターのスタッフが来場者に質問紙を手渡し回答を依頼した。分析は、ゲイ・バイセクシュアル男性、回答が初めてのもの、HIV陽性者ではないものに限定した。最終の分析対象者は2019年調査は430名、2020年調査は431名であった。治療薬の進歩の認知は2019年調査では88.6%、2020年調査では94.1%であり、U=Uの認知は2019年調査では74.8%、2020年調査では83.1%であった。コミュニティセンター来場者における治療薬の進歩やU=Uといった最新情報の認知度は2020年には8割を超えていた。U=Uといった新しい知識は浸透が進んでいることが考えられた。新型コロナウイルス感染症の拡大によりコミュニティセンターの活動にも影響が大きく出てきているが、これらの予防啓発の取り組みを低下させない工夫が必要となる。

A. 研究目的

治療薬の進歩やU=Uといった新しい知見を普及させることは、スティグマの低減やHIV検査受検促進に関連する可能性もあり、全国のコミュニティセンターでもイベント、啓発資料を活用してこれらの新しい知見の普及をおこなってきた。これらの新しい知識がどの程度普及しているのか、一般国民に対しては評価が行われており、2018年に内閣府政府広報室により、HIV感染症・エイズに関する世論調査が実施され、HIV・エイズの最新情報の認知を尋ねている。しかし、ゲイ・バイセクシュアル男性に対し、これらのHIV治療や予防をめぐる新しい知見がどの程度普及しているのか、またその普及は進んでいるのか、これらの新しい知見を持つことが検査行動や性行動と関連があるのかは評価されていない。本研究の目的は、仙台市、東京都、名古屋市、大阪市、那覇市に設置された5か所のコミュニティセンター来場者において治療薬の延命効果やU=Uといった新しい知見の浸透とHIV検査経験や予防行動との関連を明らかにすることである。

B. 研究方法

本質問紙調査は、仙台市のコミュニティセンターZEL、東京都コミュニティセンターakta、名古屋市コミュニティセンターrise、大阪市コミュニティセンターdista、那覇市コミュニテ

ィセンターmabuiにて実施した。コミュニティセンターのスタッフが来場者に調査目的と参加条件を説明し、質問紙を手渡し回答を依頼した。回答済み質問紙は、回答者に密封してもらい回収箱に投函を依頼した。回答協力に対し、500円の金券を配布した。2019年は2月、2020年は1月にそれぞれ1か月間全国一斉に調査を実施した。コミュニティセンター事業は単年度予算で運営されており、年間の活動について効果評価する必要がある。本調査は予防啓発活動の効果評価の一環としても実施されており、毎年、定期的に行われているものである。年間を通して複数のプログラムが同時に実施されており、いずれのプログラムでも一部U=Uなどの新たな知見普及が行われていたため、定期的な評価指標の中にU=Uの認知の評価も組み込んで行うこととした。コミュニティセンターでは、個人を特定する情報を収集はしていないため、2回の調査のデータを連結可能な個人情報の収集は困難であり、コホート調査とすることは困難であった。そのため、本研究は2時点で一斉調査を実施し、IDによる連結はないが縦断的に2時点の結果を比較検討するデザインを採用した。

本調査の方法や質問項目の作成にあたり、CBOスタッフと協議し、事前に模擬回答を得て回答のしやすさについてチェックを行った。回答者のプライバシー保護のため、無記名とし、

対象者個人の特定につながる情報は含んでいなかった。本研究計画は名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より承認（承認番号：18020）を受けて実施した。

C. 結果

1. 調査時期別の新しい知見の認知、基礎属性、検査・予防行動（表 1）

治療薬の進歩の認知があるものは 2019 年調査では 88.6%、2020 年調査では 94.1%であり差が見られた。U=U については 2019 年調査では 74.8%、2020 年調査では 83.1%と差が見られた。過去 1 年の HIV 検査経験も 2019 年では 46.6%、2020 年では 55.9%と差が見られた。

2. 治療薬の進歩の認知と基礎属性、検査・コンドーム使用との関連（表 2）

2019 年調査では、ゲイの方がバイセクシュアル・その他の男性より、治療薬進歩の認知割合が高かった。また、調査時点までの HIV 検査経験と認知に関連が見られた。

3. U=U の認知と基礎属性、検査・予防行動の関連（表 3）

2019 年調査では、U=U の認知と職業、センター来場経験、調査時点までの検査行動に関連が見られた。2020 年調査では、性指向、センター来場経験、調査時点までの検査行動に関連が見られた。ゲイの方がバイセクシュアル・その他の性指向のもの比べて U=U の認知があるものの割合が高く、コミュニティセンターにこれまで来たことのあるものの方が治療薬の進歩の認知があり、検査を受けたことがあるものの方が認知が高かった。コンドーム使用との関連は見られなかった。

D. 考察

2019 年調査と 2020 年調査の基礎属性を見たところ、いずれの調査においても、8 割は再来場者であり、年齢や地域、性的指向、職業はほぼ同じ割合であった。過去 1 年の HIV 検査受検割合が高くなっているが、この期間には東京、大阪、沖縄では HIV 検査をコミュニティセンターで提供していたことが影響していると考えた。これらの状況を踏まえ、両サンプルはほぼ同一とみなし、2019 年と 2020 年の調査結果についての比較を行った。本研究の対象者において、HIV 治療薬の進歩を認知している者の割合は 2019 年は 94.1%、U=U の情報を認知している割合は 2020 年は 83.1%であった。HIV 治療薬の進歩、U=U の情報双方について、地域間でも認知割合に顕著な差は認められず、概ね MSM の間では高い割合の認知であることが示され

た。2018 年実施の内閣府実施の世論調査では、HIV 治療薬の進歩の認知は 26.5%、U=U の認知割合は 33.3%であり、一般国民と比較してもコミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の新しい知見の認知が高いことが示唆された。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、以前のようにセンターをオープンできないといった課題が出てきている。コミュニティセンターの活動にも影響が大きく出てきているが、これらの予防啓発の取り組みを低下させない工夫が必要となる。

E. 結論

2019 年と 2020 年に全国 5 か所のコミュニティセンター来場者への調査を実施した。来場者での HIV 治療薬の進歩の認知度はそれぞれ 88.6%、94.1%、U=U の認知度はそれぞれ 74.8%、83.1%であった。またこれらの情報の認知をしているものの方が HIV 検査経験を有していた。新型コロナウイルス感染症の拡大によりコミュニティセンターの活動にも影響が大きく出てきているが、これらの予防啓発の取り組みを低下させない工夫が必要となる。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020. DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) Ryohei Terao, Noriyo Kaneko (Equal contribution): Survey of School Nurses' Experiences of Providing Counselling on Sexual Orientation to High School Students in Japan. *International Journal of Adolescent Medicine and Health*, doi: 10.1515/ijamh-2019-0167. 2020.
- 3) ○金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 4) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 5) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事

- 者主体の HIV 検査の取り組みと意義. 日本エイズ学会誌, 22(3), 136-146, 2020
- 6) 今橋真弓, 金子典代, 高橋良介, 石田敏彦, 横幕能行: 名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果. 日本感染症学会誌, 31(1), 2020. doi:10.24775/jjsti.S-2019-0003

- 無し
2. 実用新案登録
無し
3. その他
無し

2. 学会発表 (国外)

- 1) ○ Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection(HIV Glasgow 2020), Glasgow, 2020.

3. 学会発表 (国内)

- 1) ○金子典代: U=U をめぐる陽性者と HIV 予防対策と医療者のあり方について. 日本エイズ学会シンポジウム, 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 2) 林田庸総, 柏木恵莉, 土屋亮人, 高野操, 青木孝弘, 湯永博之, 菊池嘉, 岩橋恒太, 金子典代: 乾燥ろ紙血による HIV Ag/Ab 郵送検査の検査ラボでの結果についての検討. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 3) 荒木順, 金子典代, 木南拓也, 柴田恵, 岩橋恒太, 藤原孝大, 鈴木敦大, 小山輝道, 高久道子, 高久陽介, 市川誠一, 張由紀夫, 生島嗣: ゲイバー等との連携による「LivingTogether のど自慢」の実践とその効果について. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 4) 井上洋士, 後藤大輔, 船石翔馬, 高橋良介, 塩野徳史, 金子典代: 成人前期 (20 歳代) MSM での性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 5) 高橋良介, 末盛慶, 金子典代, 石田敏彦: NLGR+への参加状況と HIV 抗体検査受検経験の関連性. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・
- 6) 総会, WEB 開催, 2020

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

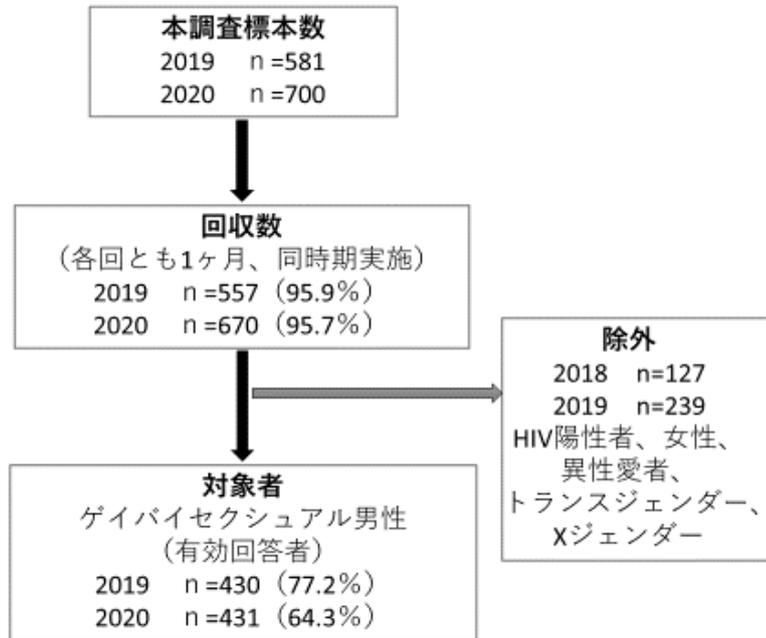


図1. 分析対象者選定までの流れ

表1. 調査年別の新しい知見の保有、基礎属性、検査・コンドーム使用

		2019 n=430		2020 n=431		p値 ¹⁾
新しい知見1: 治療薬の進歩 ²⁾						
	認知あり	379	88.6%	402	94.1%	0.005
	認知なし	49	11.4%	25	5.9%	
新しい知見2: U=U ³⁾						
	認知あり	320	74.8%	353	83.1%	0.003
	認知なし	108	25.2%	72	16.9%	
センター来場経験						
	初めて	68	15.9%	81	18.9%	0.279
	来たことがある	360	84.1%	348	81.1%	
配布地域						
	東京	170	39.5%	159	36.9%	0.166
	大阪	137	31.9%	150	34.8%	
	名古屋	63	14.7%	55	12.8%	
	仙台	40	9.3%	32	7.4%	
	沖縄	20	4.7%	35	8.1%	
年齢区分						
	29歳以下	140	32.9%	113	26.4%	0.112
	30-39歳	136	32.0%	151	35.3%	
	40歳以上	149	35.1%	164	38.3%	
性指向						
	ゲイ	357	83.0%	355	82.6%	0.928
	バイセクシュアルその他	73	17.0%	75	17.4%	
過去6か月ゲイ向け商業施設 ⁴⁾ 利用						
	あり	335	77.9%	321	74.5%	0.263
	なし	95	22.1%	110	25.5%	
職業						
	正規雇用経営者	219	51.2%	228	53.5%	0.170
	非正規アルバイト	99	23.1%	111	26.1%	
	学生・無職	110	25.7%	87	20.4%	
調査時点までのHIV検査経験						
	あり	323	76.0%	339	78.8%	0.327
	なし	102	24.0%	91	21.2%	
過去1年検査経験(検査経験者のみ)						
	あり	153	46.6%	190	55.9%	0.020
	なし	175	53.4%	150	44.1%	
過去6か月コンドーム使用(性行為実施者のみ)						
	常用	241	67.7%	238	66.1%	0.691
	非常用覚えてない	115	32.3%	122	33.9%	

1) χ^2 検定による

2) 「適切な治療を行えば、HIVに感染しても、感染していない人とほぼ同じ寿命を生きることができる」こと

3) 「適切に治療することにより、他の人へ感染させる危険性を減らすことができる」こと

4) パー、クラブ、有料ハッテン場のいずれかを指す

表2. 調査年別の治療薬の進歩の認知¹⁾と基礎属性、検査・コンドーム使用との関連

	2019(n=430)					2020(n=431)					
		認知あり		認知なし	p値 ²⁾	認知あり		認知なし	p値 ²⁾		
センター来場経験											
	初めて	51	82.3%	11	17.7%	0.066	68	86.1%	11	13.9%	0.002
	来たことがある	321	90.2%	35	9.8%		332	96.0%	14	4.0%	
配布地域											
	東京	149	90.3%	16	9.7%	0.735	145	93.5%	10	6.5%	0.788
	大阪	117	88.6%	15	11.4%		144	96.0%	6	4.0%	
	名古屋	56	88.9%	7	11.1%		51	92.7%	4	7.3%	
	仙台	35	87.5%	5	12.5%		30	93.8%	2	6.3%	
	沖縄	16	80.0%	4	20.0%		32	91.4%	3	8.6%	
年齢区分											
	29歳以下	123	88.5%	16	11.5%	0.720	105	93.8%	7	6.3%	0.974
	30-39歳	115	87.1%	17	12.9%		142	94.0%	9	6.0%	
	40歳以上	129	90.2%	14	9.8%		152	94.4%	9	5.6%	
性指向											
	ゲイ	321	90.4%	34	9.6%	0.018	336	95.5%	16	4.5%	0.011
	バイセクシュアルその他	51	79.7%	13	20.3%		65	87.8%	9	12.2%	
過去6か月ゲイ向け商業施設 ³⁾ 利用											
	あり	254	76.7%	81	23.3%	0.347	266	83.9%	51	16.1%	0.071
	なし	66	71.0%	27	29.0%		87	80.6%	21	19.4%	
職業											
	正規雇用経営者	195	91.5%	18	8.5%	0.116	214	95%	12	5.3%	0.508
	非正規アルバイト	136	85.0%	24	15.0%		102	92%	9	8.1%	
	学生・無職	24	92.3%	2	7.7%		82	95%	4	4.7%	
調査時点までのHIV検査経験											
	あり	303	92.7%	24	7.3%	<0.001	323	96.1%	13	3.9%	<0.001
	なし	70	75.3%	23	24.7%		78	86.7%	12	13.3%	
過去1年検査経験(検査経験者のみ)											
	あり	145	94.2%	9	5.8%	0.577	186	98.4%	3	1.6%	0.021
	なし	150	92.6%	12	7.4%		139	93.3%	10	6.7%	
過去6か月コンドーム使用(性行為実施者のみ)											
	常用	214	89.2%	26	10.8%	0.525	226	94.3%	10	5.7%	0.602
	非常用覚えてない	84	91.3%	8	8.7%		115	95.8%	7	4.2%	

1) 「適切な治療を行えば、HIVに感染しても、感染していない人とほぼ同じ寿命を生きることができる」ことの認知を尋ねた

2) χ^2 検定による

3) バー、クラブ、有料ハッテン場のいずれかを指す

表3. 調査年別のU=Uの認知¹⁾と基礎属性、検査・コンドーム使用との関連

	2019(n=430)					2020(n=431)					
		認知あり	認知なし	p 値 ²⁾		認知あり	認知なし	p 値 ²⁾			
センター来場経験	初めて	35	56.5%	27	43.5%	<0.001	57	73.1%	21	26.9%	0.010
	来たことがある	280	78.7%	76	21.3%		294	85.2%	51	14.8%	
配布地域	東京	129	78.2%	36	21.8%	0.076	125	81.2%	29	18.8%	0.385
	大阪	104	78.8%	28	21.2%		126	84.6%	23	15.4%	
	名古屋	46	73.0%	17	27.0%		45	81.8%	10	18.2%	
	仙台	26	65.0%	14	35.0%		30	93.8%	2	6.3%	
	沖縄	11	55.0%	9	45.0%		27	77.1%	8	22.9%	
年齢区分	29歳以下	97	69.8%	42	30.2%	0.085	92	82.1%	20	17.9%	0.127
	30-39歳	98	74.2%	34	25.8%		119	78.8%	32	21.2%	
	40歳以上	116	81.1%	27	18.9%		139	87.4%	20	12.6%	
性指向	ゲイ	273	76.9%	82	23.1%	0.097	298	85.1%	52	14.9%	0.016
	バイセクシュアルその他	43	67.2%	21	32.8%		54	73%	20	27.0%	
過去6か月ゲイ向け商業施設 ³⁾ 利用	あり	297	88.7%	38	11.3%	0.856	302	95.0%	16	5.0%	0.238
	なし	82	88.2%	11	11.8%		100	91.7%	9	8.3%	
職業	正規雇用経営者	163	76.5%	50	23.5%	0.038	185	82.6%	39	17.4%	0.646
	非正規アルバイト	112	70.0%	48	30.0%		90	81.1%	21	18.9%	
	学生・無職	24	92.3%	2	7.7%		74	86.0%	12	14.0%	
調査時点までのHIV検査経験	あり	270	82.6%	57	17.4%	<0.001	296	88.4%	39	11.6%	<0.001
	なし	46	49.5%	47	50.5%		57	64.4%	32	35.6%	
過去1年検査経験(検査経験者のみ)	あり	131	85.1%	23	14.9%	0.371	170	90.4%	18	9.6%	0.174
	なし	131	80.9%	31	19.1%		126	85.1%	22	14.9%	
過去6か月コンドーム使用(性行為実施者のみ)	常用	188	78.3%	52	21.7%	0.786	203	86.8%	31	13.2%	0.630
	非常用覚えてない	89	76.7%	27	23.3%		103	83.3%	19	15.7%	

1) 「適切に治療することにより、他の人へ感染させる危険性を減らすことができる」ことの認知を尋ねた

2) χ^2 検定による

3) バー、クラブ、有料ハッテン場のいずれかを指す